

関宮学園文化祭 11/5 学習発表会 11/11
1～9年生、頑張りました。大きな拍手、ありがとうございました。



多くの人の前で、「発表する」「演じる」「歌う」、緊張するけれど、とても貴重な経験です。最後は、度胸。子どもたちの成長を感じました。



一輪の花に春を楽しむ

季節は違いますが、「モミの木は高くそびえて（池田草庵先生の教え）」に、「^{ぜんてい}前庭に一老梅あり。改^{かいしゆん}春花開くごとに、手もてその枝を折り、これを瓶裏に挿し、几^{へいり}に憑りてこれを^{もてあそ}玩べば、^{ゆうしゆ}幽趣自然にして、意甚だ適えり。」（前庭の一本の老梅、春が来て花が咲くたびに、これを花びんに入れて眺めていると、奥深い自然の味わいを感じられ、心はとても快適だ。）という言葉があります。

ある記念講演で、華道「未生流笹岡」家元 笹岡隆甫 氏の話聞くことができました。演題は「花を愛でる心 子を愛でる心」でした。

笹岡さんの華道教室の生徒さんに年配の男性の方がおられました。「どうして華道を始めようと思われたのですか」と笹岡さんが尋ねたところ、その方は、「自分は、先の戦争後、シベリアに抑留の帰国者なんです。冬の厳しい寒さ、厳しい労働、貧しい食事、命を落とす人も多く、想像を絶する過酷な日々でだった。その中に、一人、拾ってきた花びんに野の花を挿される方があった。過酷な生活の中でも、その花を見て心癒やされる自分がいた。生きて日本に帰れた今、あのとき心を癒やされた花を自分も生きたいと始めたんだ。」とのことだったそうです。

「花を愛でる心」、大切にしたいです。

